

# 消滅可能性都市から発展都市へ ～民間コンテンツと連携した地方創生～



飯能市地方創生推進統括監 ほそだ こうじ  
細田 幸二

## 1 はじめに

平成26年5月、日本創成会議人口問題検討分科会において、飯能市は全国896の「消滅可能性都市」の一つに位置付けられた。

これは、本市にとって大きな衝撃であった一方、消滅可能性都市から発展都市を目指す取組への契機となった。

本市では、集客効果のある資源を活用して、地域のイメージを高め、本市を売り込み、認知度の向上を図り、交流人口の増加を定住人口の増加へと結びつけるようシティプロモーションの取組を進めている。

シティプロモーションは、行政にはない「営業」という要素が多くあるため、民間企業等の活動から学ぶものも多い。

そこで本市では、民間企業と地方創生に関する連携の協定を締結することにより、民間の持つコンテンツの集客力を本市の新たな地域資源として活用した地方創生を進めている。

## 2 新たな公民協働、新たな公民連携

### (1) 「よしもと」との連携

公民協働・公民連携においては、行政では民間企業等が持つノウハウや資源を活用して、事務や事業の効率性やサービスの質を高め、また、民間では、行政の持つ公共性や公益性の一部を担うことで、ブランド力や信用力の向上に価値を見出すなど、お互いのパートナーシップのもと、双方にメリットを生み出しながら地域課題の解決を図っており、このため近年、多くの自治体において、「協働・連携」の

観点からの公民協定が結ばれている。

この公民協定の多くは、阪神淡路大震災や東日本大震災などをきっかけに、災害時の協力協定として締結されてきたものや、福祉の見守り活動に関するもの、また、近年は金融機関などとの包括協定が主なものとなっている。

こうした中で本市では、民間企業とのまちづくりに関する連携協定を積極的に進めており、平成26年4月には、市民の笑顔と元気あふれるワクワクするまちの創造に向けて、株式会社よしもとクリエイティブエージェンシーと連携協定を締結した。

この連携では、イベントなどにおいてよしもと所属タレントの派遣や、市民劇団の企画運営、結婚支援事業の開催などを実施している。

本市の地域資源である緑と清流を活かしたハイキングやウォーキングにおいて、特に毎年5月に開催する「飯能新緑ツーデーマーチ」では、よしもと所属のお笑い芸人「ハイキングウォーキング」をPR隊長に任命し、2万人を超えるイベントを更に盛り上げている。



「よしもと」との連携（協定締結式）



「飯能新緑ツデーマーチ」へ「ハイキングウォーキング」がゲストとして登場

## (2) フィンテックグローバル株式会社との連携

平成27年6月、本市はフィンテックグローバル株式会社と「地方創生の推進に関する基本協定」を締結した。

この協定には、本市の宮沢湖を中心とした東京ドーム約5個分という広大なエリアに「北欧のライフスタイルとムーミンの世界を体験できる、小さな発見に満ちた北欧時間の流れる森と湖 メッツァ (metsä)」を開設することなどについて盛り込んでいる。

これは、本市が「消滅可能性都市」から「発展都市」を目指すことを宣言しており、その起爆剤として、「メッツァ」を核としたまちづくりを進めていくため、ムーミンの持つ集客力や知名度を最大限に活用し、市のイメージアップや地域産業の活性化などを図っていくものである。

また、フィンテックグローバル社では、円滑な施設開発と運営を図るとともに、本市の観光振興やその他の地方創生に積極的に関わっていくことで企業ブランドの向上や企業信用度を高めていくというものである。

こうした、「攻めの連携協定」を締結し、地域課題の解決に向けて、新たな形の公民協働・公民連携を展開していくよう進めている。



左からフィンランド大使館員、ムーミン、大久保飯能市長、フィンテックグローバル(株)玉井社長、西武鉄道(株)若林社長

## 3 メッツァを新たな観光基軸に

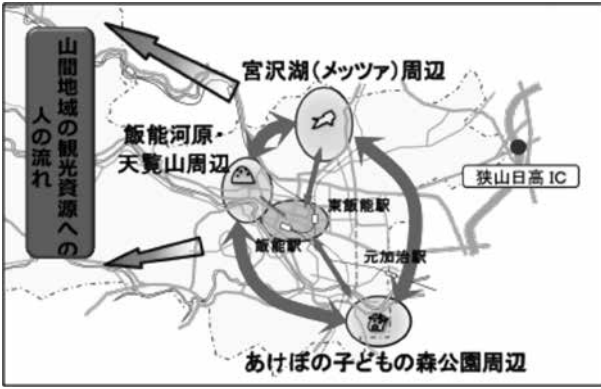
### ～市のイメージ向上と交流人口の増加～

#### (1) 都市回廊空間の構築

本市は、自然観光資源をはじめ、古刹などの歴史的観光資源が数多くあることから、従来から年間を通して、ハイキングなどを目的とした観光客が多く訪れている。

このたび、本市への「メッツァ」の建設が決定したことから、これを新たな観光の核として捉え、「メッツァ」と本市の既存観光地である「天覧山・飯能河原」、「あけぼの子ども森公園」とを「都市回廊空間」として連携させ、中心市街地を取り巻く新たな人の流れを作りだし、さらにはこの流れを市内各地や山間地に導くことで、市全体の活性化へとつなげていきたいと考えている。

平成27年度に策定した第5次総合振興計画では、前期基本計画期間（平成28年度～平成32年度）の5年間で従来の2倍にあたる480万人の入込観光客数を目標に掲げ、交流人口の拡大を図っていくこととした。



都市回廊空間イメージ



メツァビレッジ イメージイラスト

## (2) メツァとの連携

「metsä (メツァ)」は、フィンランド語で「森」を表す言葉である。フィンランドでは、森は、都市部も含め常に身近にあるもので、そのような意味では、空気や水と同じようなものと考えられている。

本市に開設される予定のメツァでは、北欧のライフスタイルを体験できる「メツァビレッジ」(平成30年秋開業予定)と、ムーミンの物語を主題とした「ムーミンバレーパーク」(平成31年春グランドオープン予定)の2つのゾーンが計画されている。



©Moomin Characters™

ムーミンバレーパーク イメージイラスト

本市では、従来の緑と清流や林業・農業といったコンテンツのほかに、「ムーミン」という世界的なキャラクターとの関係ができたところである。こうしたことから本市では、メツァとの連携による観光振興を図るほか、ムーミンキャラクターを活用した販わいづくりに積極的に取り組むこととしている。

## (3) ふるさと納税における連携

本市のふるさと納税は、地域の特産品である木製品や地域の銘菓などを返礼品としていた。

しかし、このメツァの誘致により、フィンテックグローバル社の協力を得て、スウェーデンにあるムーミンのライセンス管理会社であるブルズ社と契約し、ムーミンバレーパークのロゴ使用に関する権利を取得した。

これを活用し、市内にメツァを歓迎する雰囲気醸成するほか、ふるさと納税の返礼品にも活用したところ、今年度は平成28年12月末現在までで既に昨年度の35倍を超える寄附があったところである。

また、この返礼品の調達にあたっては、ムーミンバレーパークの運営会社であるムーミン物語社に依頼し、日本では入手困難なフィンランド製のムーミングッズや本市のふるさと納税だけのオリジナルムーミングッズを作成している。これにより寄附額の増加のみでなく本市のシティプロモーションにも大きく寄与している。



特に、最近若い女性に人気のバッグメーカー「アネロ」と「ムーミン」をコラボしたリュックをオリジナルで作成すると、多くのメディアに取り上げられ、その相乗効果でその他特産品の返礼品にも大きな影響が出始めたところである。今後は、フィンテックグローバル社及びムーミン物語社と更に協議を進め、北欧の食料品や、北欧グッズなども幅広く導入していくよう考えている。



©Moomin Characters™

ムーミンとコラボしたアネロリュック

#### (4) 協定に基づくその他の取組

フィンテックグローバル社では、都市回廊空間の一つである「飯能河原」において、新たな観光事業である「リバランタ」の管理運営を受託した。

これに併せ、これまで公共性と公益性の目的に限って利用されてきた河川敷を、より賑わいのある水辺空間とするため、市と地域の観光関係者とで構成する「飯能河原河川利用調整協議会」は、フィンテックグローバル社の運営する「リバランタ」に営業活動の実証実験を依頼した。

「リバランタ」は、ムーミンの作者トーベヤンソン女史の故郷である北欧をテーマにしたバーベ

キュー施設である。主に都内近郊からの観光客をターゲットに、「手ぶらでバーベキュー」をPRポイントとし、飯能産の野菜にこだわった食材を提供している。

7月から10月の実証実験では、91日の開設日で5,171人の利用があった。このうち90%が市外からの利用者で、60%は初めて飯能河原に訪れたという結果であり、本市の認知度の向上と新たな観光客の獲得に大きな成果となった。

今後、こうしたデータを共有し、飯能河原の活性化はもとより、メッツァを訪れる本市への新たな来訪者の対応について検討する基礎データとして活用していく。



リバランタ

## 4 メッツァ開設に向けた役割分担

メッツァは、年間100万人を超える観光客を見込んでいる。

フィンテックグローバル社の役割は、メッツァの開設とムーミン効果による集客と連携した市全体の観光プロモーションなどを中心に進めることである。

市では、来訪者の増加により予想される渋滞対策や、メッツァを目的に本市を訪れる来訪者をどのように受け入れ、市内を回遊させるか、また、市内の経済にどのように波及させるかについて検討を進めている。

メッツァは、日本国内はもとより、外国人観光客も多く訪れることが見込まれている。

本市では、こうしたインバウンド観光の増大を見据えて、多言語の観光案内板の整備をはじめ、公衆無線LANなどのICTを積極的に活用し、来訪者に便利な情報通信環境の向上を図り、グローバルスタンダードな観光基盤形成に取り組み、外国人観光客の受け入れ体制の整備を積極的に行っていく。

## 5 おわりに

本市では、恵まれた森林資源、清流、水辺環境などの自然環境の魅力と潜在力を活かし、民間の資源

やノウハウを最大限に活用して、多くの人々が自然に親しみ、住民との触れ合いを求めて訪れる集客の仕組みづくりや基盤づくりに取り組んでいく。

東京圏をはじめ国内外からも多くの人々が訪れ、賑わいを創造し、交流人口を増加させることで、定住人口の増加につなげていきたい。

「飯能に住みたい。住み続けたい。」そういうまちとなるよう、行政・市民・民間が一体となって、自然と共存・共生したオンリーワンの森林文化都市のまちづくりを推進していく。